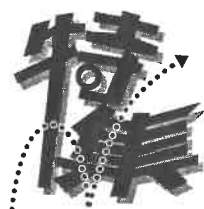


「演劇」核に人間関係形成力を育成

第33回事務通信社「教育奨励賞」優秀賞受賞校

●大阪府教育センター附属高等学校



宇宙人の転校生がやってきた！ 時間を操り、世界征服をもくろむが、実は担任の先生も宇宙人で……何と、おとなしいクラスメートも宇宙人だった?! 舞台上で高校1年生が発表する創作劇。

観客の同級生らも、合の手を入れたり、声援を送ったりしながら劇に見入っている。大阪府教育センター附属高校(大阪府住吉区、喜多英一校長、生徒数794人)で、1年の授業の集大成として行われる創作劇の発表会は、笑いと活気に満ちていた。生徒たちはそれぞれ割り当てられたキャラクターを、脚本なしで演じている。使うことが許された小道具も椅子のみだ。役者の反応や状況に応じてはアドリブで台詞を返すこともある。予想外の演技にも即座に対応することができる裏には、表現力だけでなく、「受け止める力」や「肯定的に返す力」を鍛える「劇作り」の授業がある。

全国で芸術を採り入れた教育の試行錯誤がされる中、教育センター附属高校では「劇作り」の授業を通して、生徒らが自信を持って表現力とコミュニケーション力を磨き、確かな成果を挙げていく。どのような授業を行い、また、授業成果をどのように評価しているのか。(肩書等は取材時)

受け止め、表現する力を柔軟に

2011年、大阪府の「府立高校のさらなる特色づくり推進事業」によって、府立大和川高校から大阪府教育センター附属高等学校へと新たに生まれ変わった同校は、開校以来8年間、「総合的な学習の時間」の代替として、文理融合型の探究的な学習をする「探究ナビ」の授業を開設している。1年次は「人とつながる」をテーマとして、文部科学省の事業にもなっているコミュニケーション力の向上を中心に2時限の連続授業を行い、学年末の集大成として、演劇の専門家を講師に招いて「劇作り」を行う。

「劇作り」の授業では、生徒らが自分の感情などを表現する力を育むだけでなく、①他者を受け止め②肯定的に返す力を身につけること——に重点が置かれている。前任校で演劇を教えた経験があり、探究科の主任も務めている酒井将平教諭は、「どれだけすごいアイデアを持っていても、それを受け止める人がいないと実現しない」と指摘する。「視線やうなずき方、声のトーンなども『受け止め』の表現になることを教えている」という。

1、2学期にグループワークを中心とした授業で、受け止める力を鍛えることによって、生徒らがおのずと表現をしたくなる環境を整えていく。

1学期は、「防災」をテーマとしたグループワークを行う。災害シミュレーションゲームなどを通して、他者から情報を聞き出す訓練をする。このゲームは、大震災が発生し1時間以内に津波が来ることになっている町で、的確な避難指示を出すゲームだ。グループ員には数枚ずつ、町の断片的な情報が文章や絵、写真、暗号になって書かれたカードが配られる。このカードは他のグループ員には見せてはいけないルールになっている。そのため、生徒らは自分の持っている情報を伝えるだけでなく、他者から情報をより多く聞き出すことが、正確な避難指示を出すために必要であることに気付いていく。最初に正しい避難指示を出し終えたグループの生徒は「遮らずに最後まで話を聞くことが大切だと気付いた」など笑顔で感想を語っていた。

2学期は、協調性や職業観を身につけることを目的として「職業」をテーマにグループワークをする。クラスメートが将来希望する仕事をお互いに調べてプレゼンテーションしたり、採用担当者になり切った仕事を紹介したりする。酒井主任は「働いている自分の姿を、リアリティーを持って想像してもらうことが大事」と話す。グループでの話し合いの中で、いかに良いアイデアが出るかに注目しているという。過去には、歌を作った美容師の仕事を紹介したグループや、弁護士の仕事



災害シミュレーションゲームの授業の様子

の役者の気分や
雰囲気、観客の
反応次第で台詞
や立ち回りが変
わる。直前まで
相手が何をす
るか分からなく
も、その場その
場で他者を受け
止め、自分なり
のものを表現し
ていく。こうし
た「劇作り」の

経験は、生徒らにとつて単に劇の発表の成果だけ
では終わらず、他の教科でも劇を使った発表をし
たり、卒業生らは「劇作り」の経験を大学のプレ
ゼンテーションに役立てたりするなど、授業外の
実生活でも生徒らが自ら効果を引き出している
という。

数値化できない学習評価の工夫

従来の教科のように、試験の点数などの数値に
して評価することが難しい授業を、学びとしてど
のように評価しているのか。

宮田早永子教頭は、これまで学びの「質」を評
価する在り方に幾つかの課題があったと話す。一
つは、「劇作り」の効果を各教員と共有すること
で、宮田教頭は「劇作りがコミュニケーションの
授業として成立しており評価の対象となり得ると
いう、共通理解を得ることに時間を要した」と話
す。また、「探究ナビ」は5段階評価を行ってい
るため、評価するために説得力のある基準を設け
る必要性があった。しかし、授業内で生徒らが高
いレベルの会話のキャッチボールをしていたとし
ても、他の科目のように学びの「量」として数値
化し評価することはできない。

そこで、2017年度から学びの「質」を可視
化して評価の対象とするため、カナダで提唱され
ている「学びのICCEモデル」を採用入れた。
「学びのICCEモデル」とは、学びを三つの質に
分類したもので、①基本的な知識や技術をつける
「Ideas」②知識のつながりの学び「Connections」

③応用の学び「Extensions」——の頭文字を取
ったものだ。三つの学びをバランス良く評価する
ことを目標とし、生徒らに授業後に振り返りシー
トを書かせ、その記述内容を評価の対象とする。
このモデルに基づきグループワークを作成したこと
で、授業の目標や成果が明確になり、学びの価値
を教職員間でも共有することができたという。宮
田教頭は「演劇は教科として扱われてこなかった
ので、何が基礎で、何が応用なのかも分からな
かった。モデルの導入で、どの段階でどのような学
びがあるか、経験が評価として扱えるようになって
きた」と評価する。

喜多校長は、「明るく元気に人に話をできる、
という子だけがコミュニケーション力があるわけ
ではない。他者と交流できることがコミュニケーション
力。一方的にアウトプットすることではな
く、まず相手を受け入れることが重要だ」と強調
し、「劇作り」では「相手を理解、尊重した上で、
協働できる人が育っている」と話す。宮田教頭も
「話を聞くこと、傾聴が大事だということ、日
常で感じ取ってくれる生徒は多い」と評価してい
る。

酒井主任は「他者を受け止められる自分である
ことは、変われる自分であること。相手を受け止
め、自分も相手も変わっていくことが、社会に出
たとき、困っていたり苦しんだりしている人を救
っていくことになるのかなと思う。演劇を採り入
れているのも、そこに目的がある」と劇作りの可
能性を語っている。

(越山友希 大阪支社)

をドラマで表現するグループがあったという。た
だのポスタープレゼンテーション一辺倒にならず、
奇抜なアイデアが生かされた発表になるのは、「1
学期から鍛えた『受け止める力』と『肯定的に返
す力』によって、表現する場が整えられた成果で
あつてほしい」と酒井主任は期待する。

3学期にはいよいよプロの劇団員による授業で、
立ち居振る舞いや発声を学ぶ。生徒らは、劇団員
によってランダムに決められた8人ほどのグルー
プで演劇を作ることになる。生徒が演劇に採り入
れるテーマは毎年さまざまだ。宇宙をテーマにし
たサイエンスフィクションのようなものもあれば、
LGBT(性的少数者)を扱った社会派なものも
あるという。脚本は一切作らず、決められたキャ
ラクターを演じる過程で、生徒が面白いと思つた
表現を残していく。舞台上での発表でも、その日

の役者の気分や
雰囲気、観客の
反応次第で台詞
や立ち回りが変
わる。直前まで
相手が何をす
るか分からなく
も、その場その
場で他者を受け
止め、自分なり
のものを表現し
ていく。こうし
た「劇作り」の

経験は、生徒らにとつて単に劇の発表の成果だけ
では終わらず、他の教科でも劇を使った発表をし
たり、卒業生らは「劇作り」の経験を大学のプレ
ゼンテーションに役立てたりするなど、授業外の
実生活でも生徒らが自ら効果を引き出している
という。

数値化できない学習評価の工夫

従来の教科のように、試験の点数などの数値に
して評価することが難しい授業を、学びとしてど
のように評価しているのか。

宮田早永子教頭は、これまで学びの「質」を評
価する在り方に幾つかの課題があったと話す。一
つは、「劇作り」の効果を各教員と共有すること
で、宮田教頭は「劇作りがコミュニケーションの
授業として成立しており評価の対象となり得ると
いう、共通理解を得ることに時間を要した」と話
す。また、「探究ナビ」は5段階評価を行ってい
るため、評価するために説得力のある基準を設け
る必要性があった。しかし、授業内で生徒らが高
いレベルの会話のキャッチボールをしていたとし
ても、他の科目のように学びの「量」として数値
化し評価することはできない。

そこで、2017年度から学びの「質」を可視
化して評価の対象とするため、カナダで提唱され
ている「学びのICCEモデル」を採用入れた。
「学びのICCEモデル」とは、学びを三つの質に
分類したもので、①基本的な知識や技術をつける
「Ideas」②知識のつながりの学び「Connections」